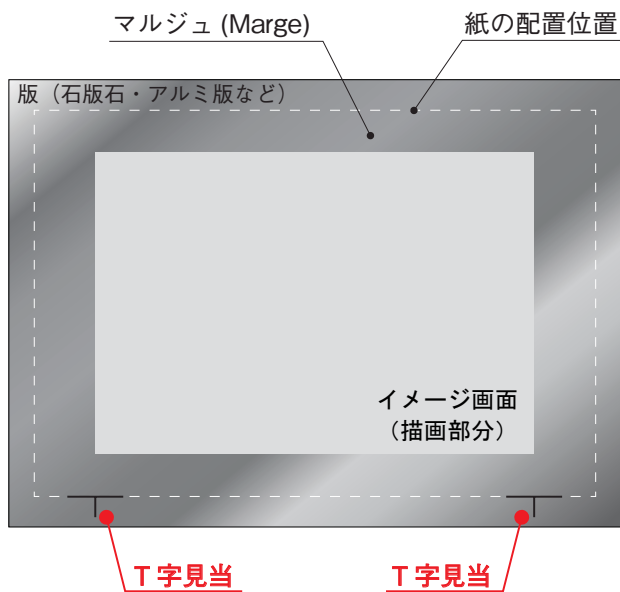




T字見当

ていーじけんとう



概要

T字見当は、版画を刷る際に版に描かれているイメージと紙の位置関係がズレることなく常に同一位置になるように付ける目印（見当）のひとつで、主にリトグラフで使用します。

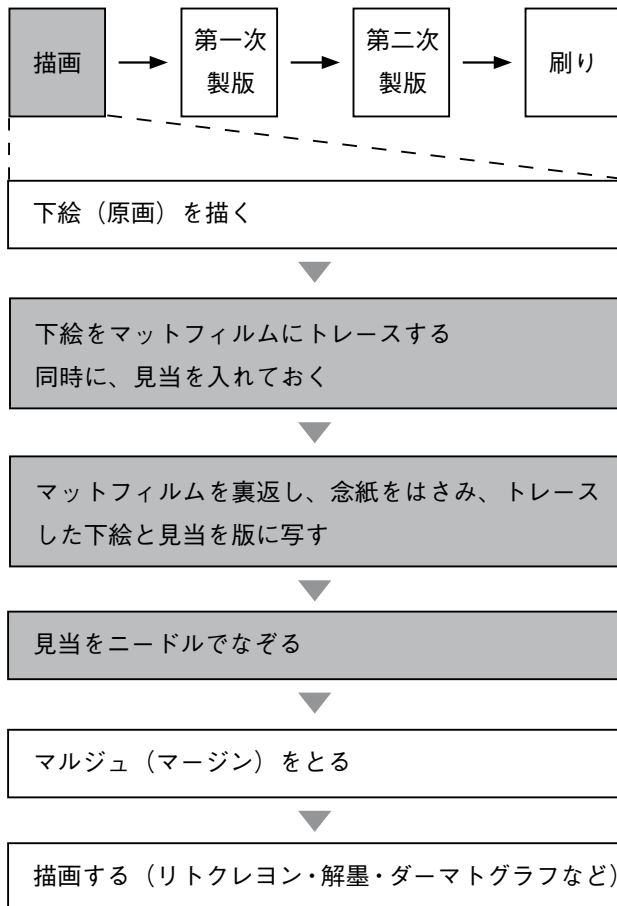
見当は一枚の紙に二版以上を用いて正確に多色刷りをする時には色ズレを防止するために必要不可欠になっています。また一版の印刷時でも余白を保つために使用します。見当は版種により、さまざまな種類が使われます。主に使用されるリトグラフでのT字見当の付け方としては、まず、版に紙を置きます。このとき、誤差を少なくするため、2カ所に入れる見当の幅を長めにとることができる長辺を底辺にします。次に、イメージ画面の短辺の線をまっすぐ延長したところと紙の底辺との接点から、版面にニードルで縦に傷を付けます。紙にも同じ点から上に向かって鉛筆で縦に印を付けておきます。さらに、接点を中心にして、紙の底辺に沿って版にニードルで傷を付けます。こうすると、版のほうにはアルファベットの大きな文字の“T”字型の線ができており、そのためT字見当と呼ばれています。

紙を版に乗せる時は、T字の横線に紙の底辺を合わせ、この時、版の見当と紙に鉛筆で付けた印が“+”になるようにします。

この他にリトグラフでは、見当の印の形を“-” “J”にして合わせる鍵見当やニードルでトンボと位置を合わせる針見当が使用されます。

リトグラフ（金属版の場合） 制作工程

※灰色の部分は、「T字見当」に関連する工程です



作業例1 マットフィルムを裏返し、念紙をはさみ、トレースした下絵と見当を版に写す



下絵をトレースしたマットフィルムを裏返して版の上に重ね、間に念紙をはさんで鉛筆等でなぞることで、版にトレースした線や見当を写します。多色作品の制作時は、使用する版の数だけ写します。

作業例2 見当をニードルでなぞる



念紙で版（写真はアルミ版）に写した見当を、アラビアゴムなどで消えないようにニードルでしっかりなぞって刻みつけます。